

シンポジウム 日本の美術館とナビ派 ― 地方美術館から考える研究の可能性



日時：

2021 年 12 月 13 日 (月)

13:30 ~ 17:30

開催方法：

Zoom ミーティング

事前予約制

(全体の参加者は 100 名まで・先着順)

主催：一橋大学大学院 言語社会研究科

科研費 若手研究 (B) (課題番号 18K12227)

美術制度から見たナビ派の受容と現在

連絡先：小泉順也 m.koizumi@r.hit-u.ac.jp

作品：ピエール・ボナール《雨降りのル・カネ風景》
1946 年 油彩・カンヴァス、上原美術館所蔵。

【概要】

19 世紀末のパリで芸術の革新を目指したナビ派の運動は、近年、世界各地で開催された展覧会を通して大きな注目を集めています。日本の美術館にも多くの関連作品が所蔵され、ナビ派を専門とする学芸員が各地で勤務しています。日本に収蔵されたナビ派の作品を地方美術館を交えた視点で捉え直し、日本における新たな研究の可能性を提示することが、今回のシンポジウムの目的です。第Ⅰ部は研究発表、第Ⅱ部はブレイクアウトセッションという二部構成とし、ナビ派に関心を持つ学生や研究者が、年代を超えて集う情報共有の機会としたいと思います。

【第Ⅰ部 研究発表】

日本の地方美術館の潜在的可能性 ― ナビ派の収蔵情報を通じた考察

新潟県立近代美術館所蔵モーリス・ドニ作《バッカス祭》研究を回顧して

東海圏の美術館におけるボナール作品 ― その多様性と研究の可能性について

ボナールの絵画における造形的特質 ― 上原コレクションを中心に

発表に対するコメント (コメンテーター)

全体討議 (司会)

小泉順也 (一橋大学大学院)

森万由子 (広島県立美術館)

貴家映子 (静岡県立美術館)

土森智典 (上原美術館)

袴田紘代 (国立西洋美術館)

小泉順也 (一橋大学大学院)

【第Ⅱ部 ブレイクアウトセッション】

第Ⅱ部の参加者には参加を希望するブレイクアウトルームを事前に申告していただき、簡単な自己紹介をお願いする予定です。ただし、参加者の人数によっては方法を変更する場合がありますのでご了解ください。

〔ブレイクアウトルーム〕 ① ピエール・ボナール

② エドゥアール・ヴュイヤール

③ モーリス・ドニ

④ その他 (メインルーム)

司会：横山由季子 (金沢 21 世紀美術館)

司会：袴田紘代 (国立西洋美術館)

司会：杉山菜穂子 (三菱一号館美術館)

司会：小泉順也 (一橋大学大学院)



参加フォームはこちらから↑